



一般社団法人
日本メディカル経営支援協会
www.jammsa.jp



一般社団法人日本メディカル経営支援協会 (JAMMSA) 第100回記念勉強会・懇親会のご案内

日時 令和7年2月13日(木) 17時30分～19時00分

17:15 受付開始と名刺交換
17:30 代表理事成木敬幸の挨拶
17:35 講演

『人生100年時代に求められる医療とは？』

～ 統合医療と Shared Decision Making ～

神奈川歯科大学大学院統合医療教育センター センター長/特任教授

統合医療 SDM クリニック 院長 川嶋 朗 先生

18:50 事務局からのご案内
19:10 懇親会

会場 紀尾井フォーラム TEL. 03-5213-6886

東京都千代田区紀尾井町4-1 ホテルニューオータニガーデンコート1F

人生100年時代に求められる医療とは？

～ 統合医療と Shared Decision Making ～

神奈川歯科大学大学院統合医療教育センター センター長/特任教授

統合医療 SDM クリニック 院長 川嶋 朗 先生

日本内科学会 認定医・総合内科専門医／日本腎臓学会 学術評議員 認定専門医

日本透視医学会 認定専門医／日本ホメオパシー協会 顧問

Licensed Associates Member of Faculty of Homeopathy

Certified Hypnotherapist of American Board of Hypnotherapy

Certified Hypnotherapist of National Guild of Hypnotists

日本予防医学会 理事・予防医学認定医／日本東方医学会 理事・学術委員

比較統合医療学会 評議員／国際生命情報科学会 (ISLIS) 副会長・常務理事

日本ホリスティック医学協会 常任理事・医療教育研究委員長

日本催眠学会 理事／日本抗加齢医学会 評議員

NPO 統合医療塾 塾頭 (理事長)／ホルミシス臨床研究会 代表理事 (理事長)

日本免疫病治療研究会 幹事／維持透析患者のための補完・代替医療研究会 (HD-CAM) 代表世話人
日本ハーブ療法研究会 監事／日本キレーション治療普及協会 世話人
日本臨床ヒプノセラピスト協会 理事／財団法人 東方医療振興財団 理事
一般社団法人 健康科学研究所 理事／国際腎臓学会、アメリカ腎臓学会など

〈略歴、研究歴など〉

1983年 北海道大学 医学部 医学科 卒業
1983年 東京女子医科大学 第4内科 入局 研修医
1985年 東京女子医科大学 第4内科 医療練士
1986年～1990年 東京女子医科大学 大学院 医学研究科
1990年 東京女子医科大学 第4内科 助手(助教)
1993年～1995年 Harvard Medical School & Massachusetts General Hospital 留学
2001年 東京女子医科大学 腎臓病総合医療センター 内科&血液浄化部門 講師
2002年 東京女子医科大学附属成人医学センター講師(兼任)
2003年 東京女子医科大学附属青山女性・自然医療研究所 副所長・講師
(東京女子医科大学附属青山自然医療研究所クリニック 所長)
東京女子医科大学附属東洋医学研究所 講師(兼任)
東京女子医科大学附属青山病院 講師(兼任)
2004年 東京女子医科大学附属青山女性・自然医療研究所 自然医療部門 助教授(准教授)
東京女子医科大学附属東洋医学研究所 助教授(准教授)(兼任)
東京女子医科大学附属青山病院 助教授(准教授)(兼任)
2014年 東京有明医療大学 保健医療学部 鍼灸学科 教授
2021年 神奈川歯科大学 特任教授
2022年 神奈川歯科大学大学院に統合医療学講座を開設(～現在に至る)
元 東京都老人総合研究所 客員研究員
元 広島大学医学部 客員教授
元 新潟薬科大学薬学部 客員教授

参加費 3千円(企業PRをする会社は4千円)

懇親会 トムCAT <https://www.newotani.co.jp/tokyo/restaurant/tomcat/sweets/>
会費 6千円

JAMMSAでは医療機関の開設、売買や、医師その他の人材募集、教育、資金調達などの情報を募集しています。ご参加の皆様には毎回全ての情報を公開しています。新しい情報があればどうぞお持ち下さい。

一般社団法人日本メディカル経営支援協会

(JAMMSA) 事務局

03-5284-8348

(講演要旨)

20 世紀に花開いた西洋医学は急性疾患や感染症などの原因究明とともに、その治療を可能にしてきた。しかしその反面、生活習慣病などの慢性疾患、原因不明の疾患、精神的な要素の関与する疾患、再発性の疾患などについては治療に苦慮する例も少なくない。加えて個々の体質や体調を考慮した治療はほとんどなされていない。

もう一方で、西洋医学による医療費が高騰し、国家経済を脅かそうとしている現状も見逃すことができない。少子高齢化による西洋医学の医療費高騰は深刻な問題である。

欧米では近代西洋医学の欠点を補う補完代替医療を治療の選択肢として考慮することで、全人的医療を提供する統合医療の理念が確立された。

日本には国民皆保険制度という世界に冠たる医療制度があるが、このためか日本国民は健康増進への意識が高い方ではなく、健康維持に努めるどころか通常は放置状態で、健康を損なった場合に医療者に依存すればよいといった傾向が強い。

その結果国民医療費は増大の一途をたどり、このままでは日本は破綻してしまいかねない。人口構造が変化し、1970 年ころまでは 20%程度だった 50 歳以上の割合が急激に増加している。2060 年には 50 歳以上は 60% (65 歳以上は 40%) 程度になると試算されている。超高齢社会である。人生 100 年時代を迎え、高い医療水準と医療技術で治す医療から高い幸福度や QOL を実現する癒す医療が求められている。それをいち早く見越した欧米ではこの理念を含む統合医療が盛んにおこなわれるようになってきている。

統合医療は単純に近代西洋医学と補完代替医療を組み合わせた医療ではない。統合医療を臨床からの表面的な視点で捉えてはいけない。統合医療の統合は **Combination** ではなく **Integration** である。統合医療とは、「個人の年齢や性別、性格、生活環境さらに個人が人生をどう歩み、どう死んでいくかまで考え、西洋医学、補完代替医療を問わず、あらゆる療法からその個人にあったものを見つけ、提供する受診側主導医療」なのである。人を幸せにする医療と言い換えてもよいだろう。

治す医療である西洋医学については、基本的に根拠に基づく医療 **Evidence-based Medicine (EBM)** が求められるが、**EBM** は人工知能に凌駕される日が来ることは明らかである。2017 年、東京大学医科学研究所に入院していた急性白血病患者さんの治療が奏功せず、敗血症の危険も生じていた状況で人工知能による分析の結果、別の診断が下され、人工知能による治療に変更したところ、軽快退院に至った。人工知能は 10 分間で 2 千万件の論文を読破する。人工知能の台頭により **EBM** についての人間の医師の必要性は低下するだろう。しかしながら、癒す医療 (補完代替医療) は科学的根拠に乏しく、人工知能では対応が難しい。科学的根拠に乏しい癒す医療こそ人間の医療者にしかできないのである。それは科学的根拠だけではなく、価値観や人生観、死生観まで理解できるのは人間だけだからだ。今、改めて統合医療が必要な時代なのである。

統合医療に含まれる補完代替医療のような科学的根拠に乏しい医療をどのように提供するかにについてはこれまでの提供者の意思しか反映されない **Informed Consent** では不十分で、提供する側とされる側の間に新たな関係性が必要である。それが **SDM=Shared Decision Making (協働意思決定)** である。**SDM** とは「質の高い医療決断を進めるために、最善のエビデンスと患者の価値観、好みとを統合させるた

めの医療者と患者間の協働のコミュニケーション・プロセス」である。SDM を用いて統合医療を駆使すれば理想的な医療の姿も実現できよう。

しかしながら、日本では医学界や行政が統合医療と積極的に取り組んでこなかったため、統合医療の正しい実践がなされず、さまざまな民間療法が野放し状態となり、これに依存したいわゆる癌難民などの被害者もあとを絶たない。

行政による規制が進まない現状で、統合医療という概念が日本に浸透し、国民を守るには、正しい知識や実践方法などを、医師も含めた提供者に教育することが急務である。とはいえ、これまで、日本には補完代替医療を総合的に学べる高等教育機関はなかった。

2022年4月、神奈川歯科大学大学院に統合医療学講座 (<http://www.graduate.kdu.ac.jp/togoiryo/>) を設立し、日本初の高等教育機関による統合医療の教育が始まった。予防医学の柱になる食事療法は日本 CD 協会にもご担当いただいている。漢方医学、アーユルヴェーダなどのアジア伝統医学、アロマセラピー、ホメオパシーなどのヨーロッパの伝統医学、カイロプラクティック、オステオパシーなど欧米では認められているにもかかわらず日本では認められていない施術などのみならず、癌やメンタル領域へのアプローチ、そして医療に欠かすことのできない医療哲学、さらには研究法など統合医療の基本を習得することができる。統合医療はこれからの時代に必要な医療である。だからこそ正しい統合医療を普及しなければならない。